

## 第2回魚河岸地区周辺にぎわい創出推進委員会 結果概要

1.日 時 平成25年12月26日(木)午後6時30分から午後8時00分まで(90分)

2.場 所 釜石市役所第4庁舎 第7会議室

3.出席者 別紙出席者名簿のとおり(次第裏面)

4.内 容 別紙次第のとおり

5.結 果

(委員長) 資料2運営シミュレーションは市の基準的な金額での計画か。

(事務局) 収支がテナント賃料だけでは厳しい経営となる。市からの指定管理で検討した。市内類似施設を参考にしている。

(委員長) 資料2については公設民営でいいかと言うこと。資料3については前回委員会で出された意見に対して事務局からの提案。主にこの2点についてご意見を頂きたい。

(委 員) 防潮堤のラインについてだが、市場には不特定多数の人が来るので、安全対策として堤外地に駐車場を確保したほうが良い。漁港利用者との関係もあるが、高度衛生管理の魚市場に関係者以外の人が入り込まない工夫が必要。魚市場2階見学デッキも堤外からアクセスできるようにすれば、非常時の避難経路確保につながる。駐車場に関しては、朝から昼は魚市場関係者、主に土日が観光客の利用で区別できると思う。管理は魚市場として管理となる。防潮堤ラインを変更できるのであれば事務局からの新たに提案された案が妥当かと思われる。漁連や漁業者との調整が必要だが、多くの民間人が堤内入り込まないようにする必要がある。

(委 員) 魚市場関係者の駐車、転回する場所に問題はないか。漁協が利用するスペースは確保できるか。

(委 員) 十分に対応できると思う。魚市場からの流れ(動線)を意識するべきかと。

(委 員) シミュレーションが必要だ。搬入搬出の車両の経路の検討が必要だ。

(委 員) (スクリーン)水門の位置等を説明。

(委 員) 搬入搬出は別の出入り口がいい。

(委員長) 背後地の道路との高低差があると思うが如何か。

(委 員) 市営ビル前を經由して魚市場に行く。東日本大震災では水門の開閉で消防団が犠牲になった。大型車両の交通よりも水門の方が大事。大型車両はあまり市場に入らない。

(委 員) 水門は大小合わせて35個ある。0でもいいと考えていた。

(委 員) 2つもあれば十分だ。多ければいいとは思わない。

(委 員) にぎわい施設に屋根はかかるのか。イベント開催時に雨天だった場合に対応できるような施設がいい。イベント中止になると日程調整が大変だ。その点、旧市場は雨よけにもなり良かった。

(委 員) 市場の利用に応じて水門が必要かと。イベントスペースは旧市場より小さいのではないか。背後地の水産加工施設用地を活用してみても如何か。暫定でもかまわない。広くあったほうがいい。

(委 員) 漁業者のスペースは何人くらいが使うものか。

(委 員) 関係者数名に確認したところ、最低限の作業スペースがあればいいとのことだった。人数的

には十数人と聞いている。

(委員) 本当に少ない。そんなにいないはずだ。

(委員) 新案では20メートルの幅で計画しているがその半分程度でいいのではないか。防潮堤をもっと海側に配置してもいい。

(委員) 地元利用者は震災前に漁具倉庫のあったスペースだけあればいいとのことだった。

(委員) 駐車場・イベント広場を可能な限り広げたほうがいい。

(委員) 漁業者との調整が必要ではある。

(委員) 駐車場は堤外にあったほうがいい。観光客には徒歩できてもらいたい。シャトルバスの運行等、イベント時の安全対策が必要。それでも不足の場合は背後地の工場などから借りることも必要なのでは。

(委員長) 事務局から提案されたB案(新案)の線形について、細かい線形は調整が必要。

(事務局) 細かい線形については事務局と漁港管理者(県)で調整する。

(委員長) 計画書55~56ページのようなイメージで、駐車場とイベントスペースが広がる。B案でまとめることとする。次に運営について、公設民営でいいものか。

(委員) 基本的にはいいと思う。公設だと公平性が求められる。経営は枠組みを超えた取り組みも必要だ。

(委員長) 経営の条件を緩和して思い切った運営をしていただきたい。その際には市のサポートも必要かと。民間の動きをどこまでサポートできるか。また最低限の透明性も確保しなければならない。

(委員) 公設はいいと思われるが、運営が民間で大丈夫か。難しい経営になりそうだ。

(委員長) FP1に大型商業施設が完成した後、どんなにぎわいを創出するか。民間のアイデアを活かしていけるような仕組みが必要だと感じる。

(委員) 経営を公設でやって人が集まる仕掛けができるか疑問。施設整備を民間事業者が独自でできるかと言えば厳しい。公設民営でもいいが赤字経営でいいのか。マーケティングしてみても如何か。

(室長) 公設民営でなければ厳しいといった主旨だ。

(委員) どう言った公設民営か。

(室長) 様々な役割分担がある。運営に関してテナントリース、施設の管理委託など市と民間で分担を決める。行政でもできる部分はある。

(委員) 施設は日常と非日常に分けて利用する計画がいいのでは。イベントにしても月1回、週1回程度で毎日では厳しいのではないか。

(事務局) 前回委員会で平野委員からご提案頂いた。

(委員) 漁協女性部の活動拠点が無い。取り上げて頂きありがたい。場所さえあればご協力できる。

(委員) 食堂か。食事も可能となるか。

(委員) 食事の提供も可能だ。

(委員) 前回委員会でもお話ししたが、千葉県保田漁港が良い例だ。最初は漁民の福利厚生施設としてコンテナで食事を提供し始めた。それが口コミなどで広がり、今は観光地となっている。東京からもアクアラインを利用して相当の観光客が押し寄せている。

(委員) コンテナでの物販、キッチンカーのようなイベント開催でもいい。ただそれだけで人が集まるか心配。地域の芸能なども併せて行うべきではないか。

- (委員) 山田町のかき小屋のような機能も取り入れてはどうか。女性部や組合、近隣ホテルなどにもお願いして連携してPRしていくことが大事。地元関係者との連携が必要で、釜石はそれができていなかった。
- (委員) 観光業の視点で男鹿市での事例を紹介させていただく。市と観光協会の出資で足湯やなまはげ館等を整備した。土日宿泊者対象の施設だったが当初は人が集まらなかった。現在はロコミで広がり週末は観光客が殺到している。なまはげは地元のサークルでやっている。民間とのつながりがすごい。釜石にも虎舞がある。地元を巻き込むことが大切だと感じる。
- (委員) 三沢もそういった動きがあると聞いている。釜石での可能性もある。
- (委員) 釜石で虎舞の認知度が低いことに驚いたことがあった。観光施設のリポートはない。食事が大事で、現在は団体食のニーズはなく、地元食が喜ばれている。漁協提供等はまさに地元食。なので運営は民間がいいと思う。
- (委員長) 民間の動きを制限しないようにすることが大事。にぎわい施設の前面の広場も一体となって利用できる仕組みがいい。
- (委員) 釜石グルメが必要。いか、さんま、さけ、ほや等、グルメをやってみては。まずはイベントでやるのがいい。
- (委員) その時期に獲れたものを提供する。季節によって変化するのがいい。
- (委員長) 施設の運営には民間の力で自由にやらせることが大事。
- (事務局) にぎわい施設をマスターリースする。テナント部分のみリースも可能。様々なやり方ができる。
- (委員長) 施設の設計段階から運営主体に関わっていただきたい。実施主体にも設計にかかわっていただく仕組みとその透明性を確保していく必要がある。
- (委員) 毎月、毎週でもイベントを開催してPRしていくことが大事。釜石で、魚河岸で何かやっていると集客につながる。メインは「食」で食べ物で人は動く。安くて美味しいものを提供していけば人の流れができるのではないかと。
- (市長) 密度の濃い意見が交わされた。計画書48ページの機能について、飲食はその通り震災前からの課題だった。機能を明確にした上で、どのような規模の施設がいいのかと言う話。釜石湾内の活用を考えれば将来的には観光船の可能性もある。現在、鈴子地区のシープラザ遊(テント)でのイベントを魚河岸地区で開催したい。駐車場を広く確保して対応したい。48ページの機能に必要な施設を設計した上で運営の話になる。魚の競り市、虎舞、釜石祭り、曳き船、そういった伝統を絶やさずにやっていけるか。財源との兼ね合いもあるが、引き続き委員の皆さんからご意見を頂戴しながら進めていきたい。
- (室長) 年度内に第3回目を開催したい。お祭りの動線や食の提供、観光施設としての魅力など委員の皆さまにお聞きしながら具体的なものにしていく。引き続きよろしく申し上げます。

閉会